

2025年12月16日

NTT 株式会社
愛知県がんセンター

NTTと愛知県がんセンター、ドラッグラグ・ロスの解消と地域医療への貢献をめざし 先進的な臨床試験 DX の共同推進を開始

～DCT（分散型臨床試験）等により患者・医療機関・製薬企業の時間的・経済的負担を軽減～

本日、NTT 株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：島田 明、以下「NTT」）と愛知県がんセンター（所在地：愛知県名古屋市、病院長：山本 一仁）は、臨床試験 DX を共同で推進する取り組みを開始します。

この取り組みは、がん治療におけるドラッグラグ・ロス^{※1}の解消と地域医療への貢献を目的としています。愛知県がんセンターの臨床試験分野における豊富な実績・知見と、NTT グループの ICT・データ連携技術を組み合わせることで、電子的な説明・同意取得や症状報告のデジタル化、電子カルテシステムと EDC^{※2}のデータ連携を進め、DCT（Decentralized Clinical Trial：分散型臨床試験）など先進的な臨床試験 DX モデルの社会実装をめざします。

さらに、オンライン診療システムの活用により、愛知県がんセンターと地域病院やクリニックをつなぎ、患者の診察状況や治療方針の相談・共有を遠隔で行える環境を整備します。これにより、地域間の医療格差を縮小し、患者がどこに住んでいても最先端のがん治療にアクセスできる体制をめざします。



(写真左から)

NTT 株式会社 執行役員 爪長美菜子氏
愛知県がんセンター 薬物療法部 医長 谷口浩也先生

1. 取り組みの背景・概要

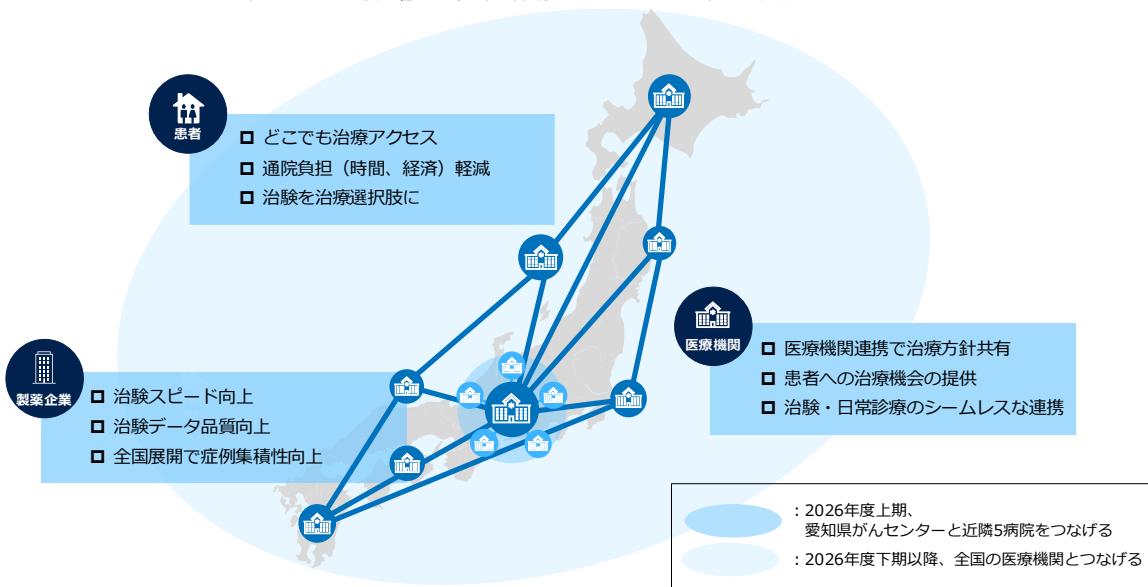
近年、医療現場において、紙ベースで運用されていることや、複数システムが分断されていることによる業務負担や低い症例集積性が原因となり、新薬開発における治験期間の長期化やコストの増大、患者の治験参加機会の地域格差、医療従事者の業務負担増といった課題が顕在化しています。特に日本では、海外で承認された薬剤が国内で利用可能となるまでに時間を要する「ドラッグ・ラグ」や、治験そのものが実施されない「ドラッグ・ロス」が社会問題となっています。また、病院間で治験や治療方法を共有できていないことにより、患者が最先端の治療にアクセスできない状況が発生しています。このような背景から、デジタルを活用した臨床試験のDX化が求められています。

両者はこの度、患者中心のモデルを社会実装することで、誰もが居住地にかかわらず最先端の治療へアクセスしやすくなる環境づくりを通じて、ドラッグラグ・ロスの解消と地域医療の発展・医療格差の是正に貢献します。

本取り組みにより、以下のような価値を提供します。

- 患者への価値**：通院負担を最小限に抑え、治療にかかる時間的・経済的負担を軽減することで、従来治験を受けたくても受けられなかつた患者のアンメット・メディカル・ニーズ（有効な治療法がない疾患に対する医療ニーズ）にも対応できるようになるなど、より多くの患者が治療の選択肢を持てるようになります。
- 医療機関への価値**：臨床試験コーディネーター（CRC）や医師の業務負担を軽減し、患者と向き合う時間を確保します。これにより、現場の働きやすさと臨床試験・治療の質を両立します。
- 製薬企業への価値**：DCTを基盤とした臨床試験DXモデルを確立し、全国の医療機関に展開可能な仕組みを構築することで、症例集積性向上による試験期間短縮、コスト低減をします。

NTTと愛知県がんセンターは、患者と医療機関と製薬企業をつなぎ、患者がどこに住んでいても最先端の治療や臨床試験にアクセスできる社会の実現をめざします。



図：NTT と愛知県がんセンターがめざす姿

2. 本協業における具体的な取り組み

本協業では、愛知県がんセンターに以下のNTTグループのデジタルソリューションを導入し治験業務の効率化を図るとともに、遠隔診療を組み合わせた地域医療機関との連携モデルを構築します。

具体的には、2026年度上期までに、SmartPRO^{※3}やPhambieLINQ^{※4}を愛知県がんセンターおよび

近隣の5医療機関に導入し、治験における医療機関連携を進めます。これにより、治験の効率化・早期化を図るとともに、医療現場の負担軽減を実現します。

(1) SmartPRO (eConsent / ePRO) を活用した臨床試験のDX化

NTT ドコモビジネス「SmartPRO」を活用し、eConsent^{※5}とePRO^{※6}を組み合わせて、患者の通院負担軽減および医療機関の作業効率化をめざします。SmartPRO の活用により、患者はオンラインで治験の説明・同意、スマートフォンなどで症状を入力できるため、自宅やかかりつけ医で治験を受けることができ、通院負担が軽減されます。医療機関は同意管理やデータ収集を効率化し、患者中心の医療に集中する体制を整えます。従来の紙ベース運用から電子化を促進し、DX を浸透させる第一歩となります。

(2) PhambieLINQ 導入を契機とした電子カルテ-EDC 連携、治験実施サポート機能活用

NTT データ「PhambieLINQ」を導入し、電子カルテと EDC を連携させることで医療機関の治験データ入力の負荷を軽減し、品質を確保します。さらに、参加者単位のスケジュールや来院日ごとの実施事項が管理できる治験実施サポート機能を活用し、患者の来院やリモート診療の管理効率化を実現します。従来の紙ベースでの管理や複数システムの併用による分断を解消し、データの一貫性と安全性を確保しながら治験業務をスムーズに進める環境を整えます。

3. 今後の展開

両者は、治験領域にとどまらず、愛知県がんセンターと地域病院・クリニックをセキュアに接続し、治験情報以外の診療情報も安全に共有できる仕組み（医療機関連携のバーチャルネットワーク）を共同で構築します。これにより、地域医療機関とがん専門医療機関の連携を強化し、患者ががんと診断された初期段階から、治験や高度専門医療など適切な治療にアクセスできる環境を整備します。

2026 年度下期以降には、臨床試験 DX モデルの標準化と、近隣の医療機関および全国の医療機関への DX 支援を拡大させます。

医師主導臨床試験・治験および企業治験の双方の視点、ならびに医療現場の課題を踏まえた継続的な改善を両者で重ねることで、臨床試験・治験と診療をシームレスにつなぐ医療 DX の実現を通じ、地域医療の質向上と持続可能な医療基盤の確立をめざします。

NTT 株式会社 執行役員 爪長美菜子氏のコメント

「NTT は、グループが有するデータ連携基盤や ICT 技術を活かし、臨床試験領域における DX の推進を加速していきます。今回の愛知県がんセンターとの取り組みは、患者中心の医療を支える新たなモデルケースとなるものです。今後も、先進的な臨床試験 DX モデルを社会実装することで、医療現場の働きやすさや臨床試験・治療の質の向上と患者中心の医療実現に貢献してまいります。」

愛知県がんセンター 薬物療法部 医長 谷口浩也先生のコメント

「私たちは、患者さんやご家族の“時間毒性 (time toxicity)^{※7}”や“経済毒性 (financial toxicity)^{※8}”を減らし、どこに住んでいても最新の臨床試験や専門的診療にアクセスできる社会を目指しています。今回の NTT との協業は、その実現に向けた大きな次のステップです。当院で培ったオンライン治験の知見と NTT グループの ICT 技術を融合し、治験参加のハードルを下げ、地域医療機関とシームレスに連携できる新たな医療基盤構築を目指します。この取り組みを通じて、すべての患者さんが希望を持って最適な治療に臨める環境を実現してまいります。」

【NTT 株式会社】

NTT は、1985 年に日本電信電話公社の民営化によって設立された国内大手通信キャリアです。これまで、携帯電話/スマートフォン、光ブロードバンド、固定電話などを提供してきました。

臨床試験の分野では、ICT の先進技術を活用し、治験参加者募集から治験データ連携・管理、オンライン診療支援、医療機関支援までを一貫してサポートする治験・臨床試験サービスを提供しています。詳細については、

https://group.ntt.jp/magazine/blog/ntt_med/をご覧ください。

【愛知県がんセンター】

愛知県がんセンターは 1964 年にがん研究会、国立がん研究センターに次いで設立され、我が国の 3 大 comprehensive cancer center（病院と研究所を併設する総合がんセンター）の一つとして、60 年余に渡って実績と信頼を築いて来ました。病院と研究所が併設されている強みを存分に活かし、科学的なエビデンスをもとに、現在ある最良の医療を提供するとともに、新しいエビデンスの創出、明日のより良い医療、がんにならないための予防法の創出に向け、まい進しています。詳細については、<https://cancer-c.pref.aichi.jp/>をご覧ください。

【用語解説】

※1：海外での既承認薬が日本国内での承認に時間と費用を要すること、また、日本国内で開発が未着手のままで使用できない状況をさします。

※2：EDC (Electronic Data Capture) とは、電子的に臨床データを収集すること、またそのシステムをさします。

※3：SmartPRO とは、NTT ドコモビジネスが提供する臨床研究を支援するデータ収集サービス（ePRO 機能と eConsent 機能を含む）です。

※4：PhambieLINQ とは、NTT データが開発した、医療機関と製薬企業をつなぐデータ連携プラットフォームです。医療機関と製薬企業のデータ連携を実現し、データの高品質化、治験プロセスの効率化に寄与します。

※5：eConsent とは、パソコンやタブレット端末などを活用し、文書や動画、ビデオ通話といった方法で試験内容を説明し、電子署名などによって参加の同意を得ることをさします。

※6：ePRO (electronic Patient-Reported Outcome) とは、スマートフォンなどを活用し電子的に PRO (治療経過や症状に関する患者の主観的評価) を収集すること、またはそのシステムをさします。

※7：時間毒性とは、治療に伴う時間的な負担をさしており、採血、治療時間、薬剤の受け取り、通院時間、待合室での待ち時間、入院などが挙げられます。

※8：経済毒性とは、治療に伴い患者とその家族に生じうる経済的な負担をさしており、治療費以外にも様々な費用が発生することで、患者の QOL や生存に影響を及ぼす可能性があるとされています。

関連リンク

[NTT グループの「治験・臨床試験」への取組み | NTT STORY | NTT](#)

本件に関する報道機関からのお問い合わせ先

NTT 株式会社 広報部門

e-mail : ntt-pr@ntt.com

愛知県がんセンター 運用部 経営戦略課 企画・経営グループ 村上

e-mail : k.murakami@aichi-cc.jp